

令和 7 年度第 1 回大船渡市立博物館協議会 議事録

開催日時：令和 7 年 6 月 3 日（火）午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分

開催場所：大船渡市立博物館 多目的ホール

出席者：【委員 6 名】

菅原幸喜、佐々木康人、佐々木イザベル、鈴木優里、中嶋敬治、千田房代

【事務局 6 名】

教育長 小松伸也、教育次長 山口浩雅、博物館長 鈴木満広、
館長補佐 新沼千鶴子、係長 村田匠、主任学芸員 古澤明輝

1 開 会

鈴木館長の司会で開会。委員 6 名全員の出席により協議会が成立していることを報告。

2 挨 拶

小松教育長

3 大船渡市立博物館協議会会長の選任等について

大船渡市立博物館管理運営規則第 9 条の規定により、協議会会長の選任を行うこととし、館長が会長の互選について委員の意見を求めた。

（委員）

事務局案があれば示してほしい。（他の委員も同意）

（館長）

事務局では佐々木康人委員に会長をお願いしたいと考えている。よろしいか。

（各委員）

はい。

（館長）

それでは佐々木康人委員に会長をお願いする。会長は職務代理者を指名してください。

（佐々木会長）

中嶋委員をお願いしたい。

（中嶋委員）

承知しました。

（館長）

それでは職務代理者は中嶋委員に決定します。

ここからは、大船渡市立博物館管理運営規則第 9 条第 2 項の規定により、佐々木会長が議長となり進行。

4 報 告

(1) 令和6年度大船渡市立博物館事業実績について

事務局から、令和6年度の事業実績について説明した。

(委員)

教育普及事業について、連携事業がたくさん行われている。椿館を訪れた人が博物館にも来館するというケースが多いと見受けられるが、傾向はどうか。

(事務局)

当館は、学校など教育目的で訪れる場合があるのに対し、椿館は、開花シーズンの1月から3月に訪れる観光客が多い。また、共通入館券を購入して椿館と両方利用するのは、旅行会社が企画する内陸からのバスツアーなどの団体客が多い。

共通入館券の利用率は、令和5年度の45%に対し、令和6年度は32%と落ち込んでいる。椿館に確認したところ、2月、3月の落ち込みが大きく、それに連動して共通入館券により当館を訪れる人も減った。椿館にも、旅行会社や一般から「山火事は大丈夫か」という問い合わせが2月中旬以降から多くなり、観光客そのものが2月、3月は減り、来館者の減につながった。

(教育長)

令和6年度の共通入館券の利用率は33%だが、令和5年度は0%で間違いないか。

(事務局)

間違いない。共通入館券を購入しての団体利用は、令和5年度はなし。

(委員)

団体利用が18団体あり、旅行会社のツアーが思いのほか多かったという印象だ。

(事務局)

旅行会社の企画は、昨年であれば「岩手、東北の縄文を巡ろう」というような大阪や東京からのツアーが多かった。クラブツーリズムなどは、椿館とセットというよりは、目的をもった博物館愛好者が集まって来るといったような旅行客が多い。

(議長)

山林火災の影響で、ツアーのキャンセルが多かったと聞いている。

(事務局)

観光全体ではかなりキャンセルが多かったようだ。当館では直接キャンセルというのとはなかったが、来館者はこの時期は大幅に減ってしまった。

(議長)

椿館との連携という部分が成果に大きく影響していると感じる。

(事務局)

当館では、来館者の住所までは一人ひとり確認していないが、6～7割は観光客であると捉えている。椿館、当館とも、受付の際は共通入館券を勧めており、それぞれで購入するより割安になるので、お互いに利用促進につなげている。また、機会あるごとに情報共有しており、共通入館券を利用して両方見てもらえるような取組をしている。

(委員)

椿館以外で、共通券のようなコラボをしているところはあるか。

(事務局)

割安の共通券というのは、歩いて行ける範囲にある椿館のみである。

(委員)

例えば、博物館で地層の話を聞いた後に、サッパ船に乗って地層を見に行くとか、博物館を見た後に歩きツアーなどがあったらよいと思う。

(事務局)

碁石に来る観光客に対して、そのような取組も有効であると考えている。一方で、椿館も当館も市の施設なので、条例に基づきお互いに料金設定をしている。市の施設と民間の観光関係の事業者とでタイアップした料金設定となると、検討が必要である。

(委員)

三陸ジオパークのガイドをしているが、昨年、旅行会社のツアーでいくつか対応し、博物館とサッパ船を組み合わせたツアーもあったが、料金はそれぞれで、コラボはしていない。

この場で共有したいのは、大船渡の博物館が軒並み高評価であること。最初の期待値はそれほどでもないが、実際に来てみると、解説がついたり、自由見学の場合でも、見るものがたくさんあって面白かったという感想をいただいている。

テーマをもって見に来られる方は、大船渡市がこの人口でこういう展示ができることも素晴らしいし、このような展示を維持している学芸員が何よりも頑張っている、一般の観光で来た方も、もっと時間があればよかったと、満足度が高い。

ガイドの依頼が来た時に、博物館で何が見られるのかという問いに的確に答えられず、総合博物館であるがゆえに、いろいろ楽しいものがあるというのを、どう伝えればここを選んでもらえるかが難しい。

(委員)

去年の夏頃の市広報紙に、博物館の職員の方たちの写真が顔出しで載っていて、どういう方がいるかがわかり、とてもよかった。今年も期待している。

(事務局)

博物館の特集を組んだもので、学芸員のインタビューも掲載された。多くの人に来てもらえるよう、顔出ししてPRした。今年度は特集の予定はないが、県の広報紙や民間の旅行関係の情報誌などの取材も受けるようにしているほか、SNSも活用しながらPRをしていきたい。

5 協 議

(1) 令和7年度大船渡市立博物館事業計画について

事務局から、令和7年度の事業計画について説明した。

(委員)

少ない予算と人員でいろいろな企画をしていると推察する。ほかの博物館も見ることがあるが、学芸員の姿勢や努力がストレートに来館者に響いてくると感じている。今後の博物館のあり方として、ここの特色ある展示に生かせるような学芸員の確保が大事であると思う。また、どこの博物館も特色あるミュージアムづくりをしっかりと打ち出しているのが感じられる。大船渡の博物館に関しては、総合的な展示というのが特色であるが、その中でも、何を来館者に訴えていくのかをしっかりとアピールしてほしい。

全国的にも博物館はたくさんあるが、展示内容を深めるために、博物館同士のネットワークを生かし、お互い協力して展示物の貸し借りをすると、よりよい展示ができるのではないかと。そういったところも事業計画に生かしてもらいたい。

(事務局)

当博物館に常勤している学芸員は2名で、専門分野は考古と地質である。当館は総合博物館で、展示の内容は広いが、気仙地域、大船渡地域の特色である地質の分野、縄文時代の貝塚が多い考古学の分野、この2つを前面に打ち出しながら企画展等を開催していきたい。

学芸員に関しては、教育委員会にも3名考古担当の学芸員がおり、協力しながら事業を進めている。また人事異動によりお互い学芸員の交流もしながら、学芸業務、文化財保護に取り組んでいきたい。

また、学芸員が説明することで来館者の理解が深まることから、7月から始まる企画展では、これまでは会期の最初と最後にのみ行っていた展示解説会を、毎月1回行うことにした。

なお、他の博物館から展示物を借りるのも重要な視点であり、過去にも何度か、県立博物館などから資料を借りたりしており、当館の資料と比較することでより理解が深まる部分もある。ネットワークとしては、全国や岩手県の博物館協議会に加盟しており、県内では年に1回、研修会等情報交換の場があるし、学芸員個人が持っているネットワークもある。ほかには、専門研究員から様々なアドバイスをいただきながら、他の施設と連携したり、当館の資料の貸し出しなどもしている。昨年度は千葉県のほうに、当館の大漁看板を貸出した。今後は、当館でも、他の施設から資料を借りてくるところにも力を入れていきたい。

(委員)

特別展示の解説会の所要時間はどのくらいか。

(事務局)

展示の内容にもよるが、30分程度である。

(委員)

以前、30分を超える解説会もあったかと思う。高齢者は30分を超えるとつらくなる人もいる。椅子が用意されていても、周りの人が立っているのに自分だけ座るのは気が引けるという感想をいただいた。年齢に関わらず、30分ぐらいが適切な時間ではないかと感じた。

(事務局)

解説会が長かったときは、展示物が盛りだくさんのときだった。今後は長くなりすぎないように工夫したい。

(委員)

釣針づくりの針の写真を見ると、釣果が気になる。

(事務局)

宮城県東松島市や宮古市など、他市の資料を参考にしたが、針が大きくて釣れなかった。釣り体験会に参加できなかった方で、自分で釣って見たら釣れたという方はいた。今後継続していく中で、達成感を得られるような工夫をしていきたい。

(議長)

釣れた場合は、その魚はどうするのか。

(事務局)

持ち帰りを想定している。博物館事業で得た魚を食べるとなると保健衛生の許可が必要で、その部分は最近厳しくなっている。

(委員)

ナイフ作りをして、それで捌いてみるというのもよいと思う。

(事務局)

自分で作って形に残して持って帰れるものは、人気のコースになると思う。

(委員)

過去の入館者を見ると、小学生が案外少ない。学童保育で支援員をしているが、学童保育では、夏休みなどに遠足を企画したくても、バスの借上げが予算的に厳しい。学童保育だけでなく、地域の子供会など、教育委員会がバスを出すということはできないものか。

(事務局)

博物館スクールといって、学校のカリキュラムに沿わせたものであれば、市のバスで送迎をしている。学童保育では、学校行事の振替で月曜に博物館見学を希望するところがあったが、休館日のため、日程が合わなかったことが何度かある。平日や土日で、日程のすり合わせができるとよい。

(議長)

委員の皆様からいただいた意見を、今後の博物館事業に生かしていただくようお願いする。

6 その他

(事務局)

協議会は年1回の開催につき、次回は来年のこの時期になるが、博物館に対するご意見、ご提言等あれば、いつでも事務局にお寄せいただきたい。

また、博物館からも企画展等の情報提供をするので、都合がつけば博物館にも足を運んでいただきたい。

7 閉 会

鈴木館長が閉会を宣言。午後2時40分終了。